

大学医療情報ネットワーク (UMIN) における電子メールとBBSの利用

櫻井 恒太郎 大江 和彦 長瀬 淑子 開原 成允

東京大学医学部附属病院中央医療情報部

UMINは全国の大学病院の機種異なる大型計算機を結ぶオンラインのネットワークとして1989年に誕生し1992年までで28の国立大学病院が接続された。利用は大学病院の職員に限られているが、UMINが提供する機能のなかで電子メールとBBSは最もよく使われており職員の情報交換と交流に役立っている。

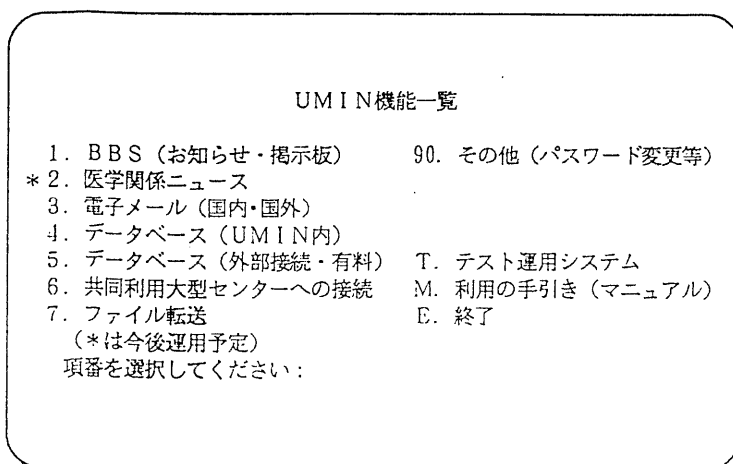
ELECTRONIC MAIL AND BULLETIN BOARD SYSTEM IN THE UNIVERSITY MEDICAL INFORMATION SYSTEM

Tsunetaro Sakurai Kazuhiko Ohe Toshiko Nagase Shigekoto Kaihara
Hospital Computer Center, University of Tokyo Hospital

University Medical Information Network (UMIN) is an on-line network and collaborative structure among university hospitals in Japan. The network was put into operation in 1989, in order to connect all mainframe computers in every university hospitals. By 1992, 28 out of 42 national university hospitals joined to the network. Among various services UMIN provides, the bulletin board system (BBS) and electronic mail (domestic and foreign) has become the most popular.

UMINの主な機能は初期メニュー（図2）にあるように 1. 電子掲示板、電子メールなど情報交換サービス 2. 医薬品添付文書、副作用情報などの医学データベース 3. 外部データベース機関へのゲートウェイ自動ログオン機能 4. ファイル転送機能などである。この中で電子掲示板と電子メールは大変好評で最も多く利用されているシステムである。UMINの利用資格は各大学病院の職員であれば誰でも利用可能であり、医師ばかりでなく看護婦、検査技師、薬剤師、事務職員など多くの職種の病院職員の参加していることが特徴である。現在までに約2000名の利用登録者があるが常時利用している人はその1/10程度である。電子メールはBITNETを通じて国内及び国外の電子メールシステムと接続されており、海外研究者や留学生への連絡、論文の送付等に幅広く利用されている。

図2 UMINの初期メニュー



3. 電子メール、BBSの実際

未読のメールがあればメニューに「メール有」の表示が出る。メニューで電子メールの項目を選ぶことにより受信メールの一覧をみて読むことが出来る。そのまま返信をしたり、編集して転送することも可能である。メールの送信はユーザーID番号を入力するか、知らない場合は名前（カタカナあるいは漢字）で検索することも可能である。グループの設定や複数の宛先への同報送信機能も備わっている。また、海外からのメールも同一のファイルで扱うことができる。宛先とタイトルを入力することによりエディタ（ASPEN）が起動し自動的に文書入力画面となる。

BBSは現在図3のような7つのボードがあり、内2つは利用者がそれぞれの委員会メンバーに限定されている。この他にも専門の職種毎に看護、検査などボードを設ける要求が出ており、BBSの階層化も検討している。

4. 今後の問題点

1) 利用環境の整備

UMINは全国の大学病院のどの端末からでもいつでもアクセスできることを目指しているが、各大学の事情により端末台数の不足やシステム構成によりまだ制限がある。大学病院独自のメールシステムを持っているところはまだ少数で、職員が毎朝メールを開けて見るという習

慣ができるまでには少し時間がかかりそうである。UMINのメールと大学病院内でのメールとの統一した取扱いも今後の問題である。

2) 接続プロトコルの改善

現在UMINは学術情報ネットワークを介してN1プロトコルを使って接続をしているが、スクリーンエディターの使用に限られることや転送速度が遅いなどの不満が生じている。各大学病院のコンピュータも徐々にTCP/IP接続をサポートするようになっておりUMINでもこのようなプロトコルの採用を準備しているところである。

以上のようにUMINの提供するBBS、電子メールシステムは使い勝手や機能がまだ限られてはいるが大学間の壁を越えて専門職の情報交流に有効であり、今後、病院内のシステムとともに発展が期待される。

図3 BBSの一覧

番号	ボードタイトル	略称	状態	未読数(総数)
1:	センターニュース	NEWS	読出しのみ	0 (30)
2:	UMIN質問箱	QA		1 (64)
3:	みんなの広場	SALON		0 (333)
4:	おくすりの広場	KUSURI		0 (340)
5:	ネットワーク運営・小委員会	UNEI		0 (4)
6:	医療情報連絡会議常置委員会	JOCHI		0 (32)
7:	電子カルテ	CHART		0 (39)
8:	練習用掲示板	DEMO		7 (33)

*(番号:テーマ選択 C:投稿 T:再表示 P:環境設定 E:終了):